

予防接種について

1. 一般的注意

予防接種は体調のよい時に受けるのが原則です。日ごろから保護者の方はお子さんの体調など健康状態に気を配ってください。そして気にかかることがあれば、あらかじめかかりつけの医師や保健所にご相談ください。

安全に予防接種を受けられるよう、保護者の方は、以下のことに注意の上、当日に予防接種を受けるかどうか判断してください。

- ①当日は、朝からお子さんの状態をよく観察し、ふだんと変わったところがないことを確認するようにしましょう。予防接種を受ける予定であっても、体調が悪いと思ったら、かかりつけの医師に相談の上、接種をするかどうか判断するようにしましょう。
- ②受ける予定の予防接種について、パンフレット（「予防接種と子どもの健康」）をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。わからないことは接種を受ける前に接種医に質問しましょう。
- ③母子手帳は必ず持っていきましょう。
- ④予診票は、接種する医師への大切な情報です。責任をもって記入するようにしましょう。
- ⑤予防接種を受けるお子さんの日ごろの健康状態をよく知っている保護者の方が連れて行きましょう。
※なお、予防接種の効果や副反応について理解した上で、接種に同意したときに限り、接種が行われます。

2. 予防接種を受けることができないお子さん

- ①明らかに発熱（通常 37.5°C 以上をいいます。）をしているお子さん
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん
急性で重篤な病気で薬を飲む必要のあるお子さんは、その後の病気の変化もわからないことから、その日は接種を受けないのが原則です。
- ③その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分で、接種後約 30 分以内にひどいアレルギー反応（汗がたくさん出る、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるようなはげしい全身反応）を起こしたことがあることが明らかなお子さん
- ④予防接種を受けようとする病気に既にかかったことがあるお子さんまたは現在かかっているお子さん
- ⑤現在、妊娠しているお子さん
- ⑥その他、医師が不適當な状態と判断した場合

3. 予防接種を受ける際に注意を要するお子さん

お子さんが以下のことに該当すると思われる保護者は、かかりつけ医師がいる場合には必ず前もってお子さんを診てもらい、予防接種を受けてよいかどうか判断してもらいましょう。受ける場合にはその医師のところで接種を受けるか、あるいは診断書または意見書をもってから予防接種を受けるようにしてください。

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けているお子さん
- ②予防接種で、接種後 2 日以内に発熱のみられたお子さんや発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられたお子さん
- ③過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがあるお子さん
- ④過去に免疫不全の診断がなされているお子さんや近親者に先天性免疫不全症の方がいるお子さん
- ⑤ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗生物質、安定剤などが入っているものがあるので、これらにアレルギーがあるといわれたことのあるお子さん

4. 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ①予防接種を受けたあと 30 分間程度は、接種会場や医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応はこの間に起こることがあります。
- ②接種後、生ワクチンでは 4 週間、不活化ワクチンでは 1 週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ④当日は、はげしい運動はさげましょう。
- ⑤接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。